

# 中国日语学习者作文中接续词的使用现状研究 ——与日语母语者对比——<sup>1</sup>

韩 涛<sup>2</sup>

吉野 贵志<sup>3</sup>

DOI: 10.18999/stul.30.79

## 1. 引言

对广大的非母语日语学习者来说，日语接续词的用法无疑是个难点。从以下的引用中，可以看出接续词的习得状况也不尽人意。

「留学生たちと会話を交わすとき、発表を聞くととき、作文を読むとき、ある共通した不自然さを感じる。それは、接続詞の使い方が、日本人とはかなり違うということである。」

（仓持、铃木 2007：1）

正是基于上述原因，仓持、铃木 2007 开始着手调查留学生关于日语接续词的习得状况。通过对来自中国、泰国、印度尼西亚、韩国以及越南的（具有中级日语水平的）日语学习者的调查，仓持、铃木 2007 发现，接续词测试的成绩与在日时间长短无关，并得出接续词自然习得困难的结论。

在这项调查中，我们注意到，来自中国的两名留学生在接续词测试中的正确率远低于平均水平（平均正确率为 51.6%）。尽管用来调查的接续词都是已经学过的，但他们的成绩却很不理想，其中一名在日 7 年的中国留学生的正确率为 33.3%，另一名是朝鲜族，在日半年，但初高中学过 6 年日语，其正确率仅有 22.2%，两人的正确率排在倒数第一、二。的确，在日常教学中，特别是在指导学生写毕业论文时，有关接续词的误用、不用、

---

<sup>1</sup> 本文为日本学术振兴会科学研究费助成事业基盘研究（B）「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」，2014-2018，（课题编号：26285196）的阶段性研究成果。

<sup>2</sup> 名古屋大学大学院国际语言文化研究科博士课程毕业，现为北京外国语大学日语系讲师，E-mail: hantao@bfsu.edu.cn

<sup>3</sup> 筑波大学大学院教育研究科日本語教育硕士课程毕业，现任职于日本国立教育政策研究所，E-mail: type618@gmail.com

过用的问题随处可见。可问题出在哪里呢？是我们的教材出了问题？还是我们的教师出了问题？抑或是我们的重视不够呢？这些都是值得我们反思的地方。

迄今为止，有关接续词的研究，包括专著和论文大概有 800 余篇（部）（石黑 2008），这其中有不少是考察日语学习者接续词使用状况的（如高野 2012），但与日语母语者进行对比的研究还不多见。目前，我们在中国知网（<http://www.cnki.net/>）上仅看到一篇关于这方面的研究（张建华 2009）。

鉴于此，本文立足于对比的视角，首先，从定量的角度调查中国日语学习者接续词的使用现状；进而，与日语母语者的使用状况进行比较；最后，结合问卷调查的结果对今后的教学提出几点建议。

## 2. 定量调查

为了弄清中国日语学习者使用接续词的现状，我们首先进行定量调查。以下，先介绍本次调查使用的语料库以及分析方法，在此基础之上，对调查结果进行分析。

### 2.1 语料库的选用

本调查所使用的语料库主要包括以下四个：

- (1) 石黑他 2009
- (2) 日本中学生未校正作文语料库
- (3) 日本中小学生作文大赛获奖作品语料库
- (4) 中国日语学习者未校正作文语料库

#### 2.1.1 石黑他 2009

石黑他 2009 的调查对象包括以下内容：

**【新聞の社説】**

・『毎日新聞』朝刊「社説」2001 年 1 月 1 日～2005 年 12 月 31 日（5 年分）

**【新聞のコラム】**

・『毎日新聞』朝刊「余録」2001 年 1 月 1 日～2005 年 12 月 31 日（5 年分）

**【論文】**

『一橋論叢』日本評論社、2004 年 4 月号～2005 年 3 月号（131 巻 4 号～6 号、132 巻 1 号～6 号、

133 卷 1 号～3 号：12 ヶ月分)
<p>【エッセイ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本エッセイスト・クラブ編 (2001) 『' 01 年版ベスト・エッセイ集 母のキャラメル』 文藝春秋</li> <li>・同 (2002) 『' 02 年版ベスト・エッセイ集 象が歩いた』 文藝春秋</li> <li>・同 (2003) 『' 03 年版ベスト・エッセイ集 うらやましい人』 文藝春秋</li> <li>・同 (2004) 『' 04 年版ベスト・エッセイ集 人生の落第坊主』 文藝春秋</li> <li>・同 (2005) 『' 05 年版ベスト・エッセイ集 片手の音』 文藝春秋</li> </ul> <p>【小説】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『新潮文庫の 100 冊』 1995 年、CD-ROM 版</li> <li>・『新潮文庫の絶版 100 冊』 2000 年、CD-ROM 版</li> </ul> <p>【シナリオ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シナリオ作家協会 年鑑代表シナリオ集編集委員会 (2003) 『' 02 年鑑代表シナリオ集』 シナリオ作家協会</li> <li>・同 (2004) 『' 03 年鑑代表シナリオ集』 シナリオ作家協会</li> <li>・同 (2005) 『' 04 年鑑代表シナリオ集』 シナリオ作家協会</li> </ul> <p>【(参考) 講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石黒 (2007) で論じた講義の接続表現 文章表現論 (30 代の男性教員) 1 本、レトリック論 (30 代の女性教員) 1 本、日本文学 (40 代の男性教員) 3 本、日本語学 (50 代の男性教員) 3 本、発達心理学 (50 代の女性教員) 3 本の学部生を対象とした人文科学系の講義。</li> </ul>

## 2.1.2 日本中学生未校正作文语料库

日本中学生未校正作文语料库，是日本学术振兴会科学研究费助成金基盘研究 (B) 「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」 (主持人：筑波大学 矢澤真人) の一項阶段性研究成果。以下是该语料库的简介：

国立大学附属中学校在学学生 (第 1 学年～第 3 学年の合計 470 編)

- ・全校生徒を対象にした悉皆調査 (2014 年実施)
- ・作文題目は「夢」 (将来の夢、寝て見る夢なども含む)
- ・教員は作文についての事前指導や助言または添削を一切行わない

- ・作成時間は 45 分
- ・1 人当たりの文字数は 400～800 字程度

### 2.1.3 日本中小学生作文大赛获奖作品语料库

日本中小学生作文大赛获奖作品，包括在日本读卖新闻社主办的“（日本）全国小学生作文大赛”中入围以及获奖的作品。该作文大赛是同类大赛中规模最大的作文比赛，从来自日本全国的 3 万篇中选出 30 篇入围以及获奖作品。本调查所涉及的作品包括以下作品集：

- ・読売新聞東京本社 事業開発部編(2012)『第 61 回 全国小・中学校作文コンクール 作文優秀作品集』読売新聞社
- ・同 (2013)『第 62 回 全国小・中学校作文コンクール 作文優秀作品集』読売新聞東京本社
- ・同 (2014)『第 63 回 全国小・中学校作文コンクール 作文優秀作品集』読売新聞東京本社
- ・同 (2015)『第 64 回 全国小・中学校作文コンクール 作文優秀作品集』読売新聞東京本社

### 2.1.4 中国日语学习者未校正作文语料库

为了调查中国日语学习者接续词的使用现状，本调查事先构建了中国日语学习者未校正作文语料库。为了便于和日语母语者进行对比研究，该语料库同样以“梦”为主题，同样为未校正作文。以下是基本情况：

- ・北京外国语大学日语系在校生（一年级～三年级）
- ・N1：36 人、N2：36 人、N3：42 人（計：114 人）
- ・2015 年 6～7 月实施

## 2.2 分析方法

为了与石黑他 2009 以及吉野 2015 进行对比，进而揭示出中国日语学习者使用接续词的多寡和连接类型的特征，定量分析主要考察以下四个方面：①接续词的出现频率、②接续词占总句数的比例、③每种类型接续词的出现频率以及占接续词总数的比例、④每种类型接续词的出现种类数。

本调查所涉及的接续词，以石黑他 2009（共涉及 137 种接续词）为基础，对其中涉及到的接续词进行必要的删除和补充。为了方便检索，本调查只考察句子层面的且位于

句首的接续词。

## 2.2 分析结果

### 2.2.1 接续词的出现频率

中国日语学习者的未校正作文中接续词的出现频率如表1所示。需要留意的是表1中带「\*」号的接续词,代表了该接续词还包含其他形式,比如,「いいかえると」这个接续词同时包含「いいかえれば」(详见石黑他2009)。

表1 中国日语学习者接续词的出现频率

	N1	N2	N3	計		N1	N2	N3	計		N1	N2	N3	計		N1	N2	N3	計
あるいは	1	2	0	3	じゃなくて	0	0	0	0	それはさておき	0	0	0	0	というのは*	0	0	0	0
あと	0	0	0	0	すなわち	0	0	0	0	そんなふうに*	0	0	0	0	というの*	0	0	0	0
いいかえると*	0	0	0	0	すると	2	0	0	2	第一に*	0	0	0	0	というより*	0	0	0	0
以上*	0	0	0	0	そうしたら*	0	2	0	2	第二に	0	0	0	0	とくに*	4	1	4	9
いずれにしても	0	0	1	1	そうして	0	0	0	0	第三に	0	0	0	0	ところが	2	2	2	6
いずれにしろ	0	0	0	0	そうしないと	0	1	0	1	第四に	0	0	0	0	ところで	4	1	1	6
いってみれば	0	0	0	0	そうすると	0	0	0	0	だが	3	0	1	4	どちらにしても*	0	0	0	0
一方*	1	0	0	1	そうそう	0	0	0	0	だから	9	12	23	44	とにかく*	1	1	0	2
いな(否)	0	0	0	0	そうではなく*	0	0	0	0	だからこそ	1	1	0	2	とはいもの*	0	0	0	0
いわば	1	0	0	1	そこで	0	0	0	0	だからといって	0	0	0	0	とはいえ*	2	1	0	3
おまけに	0	0	0	0	そして	21	12	26	59	だけど*	1	1	0	2	とりわけ*	0	0	0	0
かえって	0	0	1	1	そのうえ	0	2	0	2	ただ	0	1	1	2	なお*	0	0	0	0
かくして	0	0	0	0	そのかわり*	0	0	0	0	ただし	0	1	3	4	なかでも*	1	0	0	1
かわりに	0	0	0	0	そのくせ	0	0	0	0	だって	0	0	0	0	なぜかという*	2	2	1	5
換言すると*	0	1	0	1	その結果*	0	1	0	1	たとえば	2	1	11	14	なぜなら*	0	2	1	3
きやく(逆)に*	0	0	0	0	その後*	2	1	3	6	だとすると*	0	0	0	0	なにしろ	0	0	0	0
具体的には	0	0	0	0	そのため	4	3	0	7	他方*	0	0	0	0	なにせ	0	0	0	0
結局*	1	0	1	2	そのために*	2	3	0	5	ちなみに	0	0	1	1	にもかかわらず*	0	0	0	0
けど*	0	0	0	0	そのように*	1	0	0	1	つ(次)いで	0	0	0	0	はじめに*	0	0	0	0
けれども*	2	1	1	4	それが	0	0	0	0	ついでに*	0	0	0	0	反対に*	0	0	0	0
こうして	0	0	0	0	それから	8	2	9	19	つぎに*	0	1	0	1	反面*	0	0	0	0
ここで	1	0	0	1	それで	4	2	3	9	つづいて*	0	0	0	0	ひとつめに*	0	0	0	0
こと(殊)に	0	0	0	0	それでこそ	0	0	0	0	って	0	0	0	0	ふたつめに	0	0	0	0
このように*	0	0	2	2	それでは*	1	0	1	2	つまり*	2	2	0	4	まず*	2	3	1	6
こんなふうに*	0	1	0	1	それでも	1	0	3	4	で*	0	0	0	0	また	4	2	2	8
最後に*	2	3	5	10	それとも	0	0	0	0	ていうか*	0	0	0	0	または	0	0	0	0
最初に*	1	0	0	1	それなので*	0	0	0	0	ですが	0	1	2	3	またまた	0	0	0	0
さて	0	1	0	1	それなのに*	0	0	1	1	ですから	8	1	0	9	みつつめに	0	0	0	0
さもないと	0	0	0	0	それなら*	1	0	0	1	ですけど*	0	0	0	0	むしろ	0	0	0	0
さらに*	1	0	4	5	それに	3	1	14	18	では	1	0	0	1	もつとも	0	0	0	0
しかし	18	17	21	56	それにくわえて	0	0	0	0	でも	26	14	33	73	ゆえに*	0	0	2	2
しかしながら	0	0	0	0	それにしても	0	0	0	0	と	3	1	0	4	よりするに	0	0	0	0
しかも	1	2	0	3	それとたいして*	0	0	0	0	というか	0	0	0	0	より(裏)は	0	0	0	0
したがって	0	0	0	0	そればかりか	0	0	0	0	ということ*	0	0	0	0	よって	0	0	0	0
じゃあ	0	1	0	1															

表2是按照N1~N3各出现频率的合计值的降序进行排列的。

表 2 中国日语学习者接续词的出现频率 (降序)

順位		N1	N2	N3	計		N1	N2	N3	計		N1	N2	N3	計		
1	でも	26	14	33	73	21	けれども*	2	1	1	4	32	とにかく*	1	1	0	2
2	そして	21	12	26	59	21	それでも	1	0	3	4	32	ゆえに*	0	0	2	2
3	しかし	18	17	21	56	21	だが	3	0	1	4	43	いずれにしても	0	0	1	1
4	だから	9	12	23	44	21	ただし	0	1	3	4	43	一方*	1	0	0	1
5	それから	8	2	9	19	21	つまり*	2	2	0	4	43	いわば	1	0	0	1
6	それに	3	1	14	18	21	と	3	1	0	4	43	かえって	0	0	1	1
7	たとえば	2	1	11	14	27	あるいは	1	2	0	3	43	換言すると*	0	1	0	1
8	最後に*	2	3	5	10	27	しかも	1	2	0	3	43	ここで	1	0	0	1
9	それで	4	2	3	9	27	ですが	0	1	2	3	43	こんなふうに*	0	1	0	1
9	ですから	8	1	0	9	27	とはいえ*	2	1	0	3	43	最初に*	1	0	0	1
9	とくに*	4	1	4	9	27	なぜなら*	0	2	1	3	43	さて	0	1	0	1
12	また	4	2	2	8	32	結局*	1	0	1	2	43	じゃあ	0	1	0	1
13	そのため	4	3	0	7	32	このように*	0	0	2	2	43	そうしないと	0	1	0	1
14	その後*	2	1	3	6	32	すると	2	0	0	2	43	その結果*	0	1	0	1
14	ところが	2	2	2	6	32	そうしたら*	0	2	0	2	43	そのように*	1	0	0	1
14	ところで	4	1	1	6	32	そのうえ	0	2	0	2	43	それなのに*	0	0	1	1
14	まず*	2	3	1	6	32	それでは*	1	0	1	2	43	それなら*	1	0	0	1
18	さらに*	1	0	4	5	32	だからこそ	1	1	0	2	43	ちなみに	0	0	1	1
18	そのために*	2	3	0	5	32	だけど*	1	1	0	2	43	つぎに*	0	1	0	1
18	なぜかという*	2	2	1	5	32	ただ	0	1	1	2	43	では	1	0	0	1
												43	なかでも*	1	0	0	1

由此可以发现发现, 在中国日语学习者使用的接续词中, 「でも」(73 件)、「そして」(59 件)、「しかし」(56 件)、「だから」(44 件)四种类型, 占了所有接续词出现频率的一半以上。这一结果与日语本族语者使用接续词的情况十分相近。请看表 3:

表 3 日语本族语者使用接续词 (前四位) 的情况

## (a) 小学生未校正作文

	小1		小2		小3		小4	
	粗頻度	1,000文中頻度	粗頻度	1,000文中頻度	粗頻度	1,000文中頻度	粗頻度	1,000文中頻度
そして	10	21.65	26	33.38	39	35.10	77	53.51
でも	23	49.78	22	28.24	47	42.30	58	40.31
だから	2	4.33	12	15.40	20	18.00	18	12.51
また	8	17.32	9	11.55	6	5.40	19	13.20

  

	小5		小6		小学生合計	
	粗頻度	1,000文中頻度	粗頻度	1,000文中頻度	粗頻度	1,000文中頻度
そして	41	25.88	55	34.63	248	35.62
でも	49	30.93	50	31.49	249	35.76
だから	21	13.26	30	18.89	103	14.79
また	19	11.99	29	18.26	90	12.93

## (b) 中学生未校正作文

	中1		中2		中3		合計	
	粗頻度	1,000文中頻度	粗頻度	1,000文中頻度	粗頻度	1,000文中頻度	粗頻度	1,000文中頻度
そして	120	49.79	86	30.03	111	39.49	317	39.21
しかし	55	22.82	98	34.22	141	50.16	294	36.4
でも	68	28.22	73	25.49	60	21.34	201	24.86
だから	66	27.39	61	21.30	55	19.57	182	22.51

(c) 小学生作文大赛获奖作文

	小1		小2		小3		小4	
	粗頻度	1,000文中頻度	粗頻度	1,000文中頻度	粗頻度	1,000文中頻度	粗頻度	1,000文中頻度
でも	24	31.66	64	31.02	40	23.57	59	28.77
そして	18	23.75	45	21.81	36	21.21	55	26.82
だから	6	7.92	15	7.27	10	5.89	30	14.63
しかし		0	5	2.42	5	2.95	12	5.85
また	9	11.87	8	3.88	6	3.54	17	8.29

  

	小5		小6		小学生合計	
	粗頻度	1,000文中頻度	粗頻度	1,000文中頻度	粗頻度	1,000文中頻度
でも	60	25.36	43	14.86	290	24.52
そして	63	26.63	60	20.74	277	23.42
だから	21	8.88	28	9.68	110	9.30
しかし	8	3.38	48	16.59	78	6.59
また	17	7.19	21	7.26	78	6.59

如表3所示,在日语本族语者使用的接续词中前四位同样是「でも」、「そして」、「しかし」、「だから」四种类型,只是排序稍有不同,「そして」(842件)、「でも」(740件)、「だから」(395件)、「しかし」(372件)。

### 2.2.2 接续词的出现频率和接续词占总句数的百分比

接续词占总句数的百分比是依据「接续词出现频率 / 总句数 = 百分比」计算得出的。表4中最下方阴影部分是本次调查的结果,其余部分分别是石黑他2009和吉野2015得出的调查结果。

表4 接续词的出现频率和接续词占总句数的百分比

ジャンル	総文数	接続表現数	割合(%)
社説	99,514	12,156	12.2%
コラム	36,527	2,895	7.9%
論文	19,705	5,020	25.5%
エッセイ	17,952	2,365	13.2%
小説	730,510	75,709	10.4%
シナリオ	38,984	1,186	3.0%
講義(参考)	6,717	2,481	36.9%
中学生未校正作文	10,881	1,891	17.4%
作文コンクール	19,395	1,713	8.8%
中国人日本語学習者	2,397	454	18.9%

通过表4可以发现,中国日语学习者使用的接续词占总句数的百分比18.9%,除去讲义(参考),仅次于论文的百分比(25.5%)。另外,如表4所示,这一比例略高于日本

中学生未校正作文的比例(17.4%)。究其原因大致有以下几点:第一,从作文本身看,两者都属于教师未批改过的未校正作文。从这一点上看它与经过修改和校正的作文大赛获奖作品(8.8%)存在较大差异;第二,可能是由于两者都是围绕同一个主题「夢」展开的,日本中学生依靠的是母语的语感,而中国日语学习者是大学生,较日本中学生而言具有较高的理论思考能力。

### 2.2.3 不同连接类型的接续词的出现频数

表 5 以各个文章群中出现频率高的前 30 位(降序排列)的接续词为对象。点线的上方表示连接类型接续词的出现频数,下方是各个文章群中接续词出现频数占总数的百分比。其中,中国日语学习者的情况如下:表示伦理关系的接续词占总数的 56.90%(235 件)、表示叠加关系的接续词占总数的 25.91%(107 件),表示对等关系的接续词占总数 0.73%(3 件)、表示话题转换的接续词占总数的 16.46%(68 件)。值得注意的是,中国日语学习者使用表示叠加关系的接续词的比例要高于其他文章群。

表 5 不同连接类型的接续词的出现频数(总次数)

	論理	加算	対等	話題展開	合計
社説	6502 59.18%	1368 12.45%	0 0.00%	3116 28.36%	10986
コラム	1472 59.35%	271 10.93%	0 0.00%	737 29.72%	2480
論文	1409 33.94%	966 23.27%	0 0.00%	1776 42.78%	4151
エッセイ	989 53.69%	445 24.16%	0 0.00%	408 22.15%	1842
小説	34501 54.64%	15974 25.30%	473 0.75%	12191 19.31%	63139
シナリオ	879 82.07%	79 7.38%	0 0.00%	113 10.55%	1071
講義	1626 68.67%	328 13.85%	28 1.18%	386 16.30%	2368
中学生 未校正作文	1003 58.59%	385 22.49%	0 0.00%	324 18.93%	1712
児童生徒作文 コンクール	873 56.25%	368 23.71%	0 0.00%	311 20.04%	1552
中国人 日本語学習者	235 56.90%	107 25.91%	3 0.73%	68 16.46%	413
平均割合	58.33%	18.94%	0.27%	22.46%	

另外,从表 5 中可以看出,中国日语学习者的叠加关系的百分比(25.91%)在所有文章群中比例最大,与第 2 位的小说(25.3%)几乎没有大的差异。从连接类型的比例来看,中国日语学习者与小说、中学生未校正作文以及中小学生获奖作文的百分比都比较



接近。

#### 2.2.4 不同接续类型的接续词出现的种类数

与表 5 一样,表 6 同样以各个文章群中出现频率高的前 30 位(降序排列)的接续词为对象。点线的上方表示连接类型接续词的出现频数,下方是各个文章群中接续词出现频数占总数的百分比。

表 6 不同接续类型的接续词出现的种类数(不同词数)

	論理	加算	対等	話題展開	合計
社説	12 40.0%	8 26.7%	0 0.0%	10 33.3%	30 100.0%
コラム	11 36.7%	6 20.0%	0 0.0%	13 43.3%	30 100.0%
論文	9 30.0%	5 16.7%	0 0.0%	16 53.3%	30 100.0%
エッセイ	12 40.0%	6 20.0%	0 0.0%	12 40.0%	30 100.0%
小説	13 43.3%	6 20.0%	1 3.3%	10 33.3%	30 100.0%
シナリオ	18 58.1%	5 16.1%	0 0.0%	8 25.8%	31 100.0%
講義	15 46.9%	6 18.8%	1 3.1%	10 31.3%	32 100.0%
中学生 未校正作文	16 53.3%	5 16.7%	0 0.0%	9 30.0%	30 100.0%
児童生徒作文 コンクール	16 51.6%	4 12.9%	0 0.0%	11 35.5%	31 100.0%
中国人 日本語学習者	15 48.4%	6 19.4%	1 3.2%	9 29.0%	31 100.0%
平均割合	44.8%	18.7%	1.0%	35.5%	

其中,中国日语学习者的情况如下:表示伦理关系的接续词占 48.4%(15 件)、表示叠加关系的接续词占 19.4%(6 件)、表示对等关系的接续词占 3.2%(1 件)、表示话题展开的接续词占 29.0%(9 件)。

此外,从表 6 中也可以看出,中国日语学习者的各项指标与小说、讲义(参考)以及日本中学生未校正作文的比例相似。

#### 2.2.5 和张建华 2009 的比较

从上述定量分析中不难发现,中国日语学习者和日本中学生未校正作文之间具有较高的相似度,这一点似乎与张建华 2009 得出的结论不尽相同。张建华 2009 调查中日大学生作文中接续词的使用现状发现,中国日语学习者与日本本族语者之间有较大差异。我们认为,导致这两种不同结果的起因在于张建华 2009 采用的连接类型的分类标准与我

们不同。张建华 2009 依据的是市川 1978 的分类标准,即将接续词类型分为顺接、逆接、添加、对比、转换、同列和扩充。也就是说,张建华 2009 的分类标准较我们采用日本语记述文法研究委员会编 2009 的分类标准要细。而且,张建华 2009 选用的语料(无论是中国日语学习者的作文,还是日语本族语者的作文)被修改、校正过的可能性较大。但即便如此,如果将张建华 2009 调查的中国日语学习者和日语本族语者使用顺接和逆接的比例相加,其百分比接近 50%,与我们的结果近似。换言之,张建华 2009 与我们只是尺度不同,并无本质上的差异。

### 3. 对今后教学的建议

从本次的调查结果看,中国日语学习者和日语母语者在量的使用上并无太大差别,但这并不意味着中国日语学者在接续词质的使用上没有问题。我们顺便对北京外国语大学日语系一年级(20 名)、二年级(23 名)和四年级(7 名)总计 50 名学生进行了一项问卷调查,结果发现中国日语学习者在接续词用法的习得上还存在如下问题:

1) 对接续词概念本身并不清楚。比如,

(1) a. 印鑑、通帳、それから住民票を持ってきました。

b. このマスクは、風邪の人に、あるいは花粉症の人におすすめです。

c. この本は、嫌なことがあって落ち込んだときに、そして、恋愛で傷ついてしまったときに、ぜひ読んでください。(例(2)引自石黑 2008:29)

一年级有 45% 的学生(9 名)认为(a)中的“それから”不是接续词,有 80% 的学生(16 名)认为(b)中的“あるいは”不是接续词,有 10% 的学生(2 名)认为(c)中的“そして”不是接续词。也就是说,认为前两例不是接续词的比例远远高于第 3 例,而认为第 2 例不是接续词的比例又大大高于第 1 例。这种情况在二年级也大致相同。由于二年级里有一名未对此题作出回答,因此,共得到 22 人的回答。其中 36.3% 的学生(8 名)认为(a)中的“それから”不是接续词,86.3% 的学生(19 名)认为(b)中的“あるいは”不是接续词,15% 的学生(3 名)认为(c)中的“そして”不是接续词。四年级里有 85.7% 的学生(6 名)认为(a)中的“それから”不是接续词,42.9% 的学生(3 名)认为(b)中的“あるいは”不是接续词,57.1% 的学生(4 名)认为(c)中的“そして”不是接续词。也就是到了四年级,认为第 1 例和第 3 例不是接续词的比例反而有所增加。

接续词，顾名思义起衔接作用的词。需要指出的是，接续词衔接的并不只是句子与句子，它还可以衔接比句子小的成分，如短语与短语、词与词等。如果我们不在教材中或课上跟学生讲清楚这一点，他们就会想当然地认为只有衔接句子的才叫接续词，这样就会使他们在对接续词本身的理解上造成重大偏误。顺便说一下，对例（1）判断正确的人数一年级有3名（15%），二年级仅有1名（4.5%），四年级为0名。

2) 对用法相近的接续词的区别掌握较差。比如，

(2) a. これと、これと、そしてこれください。

b. これと、これと、それからこれください。

一年级有50%的学生（10名）认为（a）是没有问题的，另有35%的学生（7名）认为（b）是有问题的。而二年级有52.2%的学生（12名）认为（a）是没有问题的，另有30.4%的学生（7名）认为（b）是有问题的。也就是说随着年级的升高，情况并未好转。到了四年级情况甚至变得更加严重。四年级有71.4%的学生（5名）认为（a）是没有问题的，同时有71.4%的学生（5名）认为（b）是有问题的。

“そして”和“それから”都属于较为常见的接续词，并且分别出现在《综合日语》（北京外国语大学精读课使用教材：引用者注）第一册第5课和第6课。但从问卷调查的结果来看，中国日语学习者对这两个接续词习得的状况并不理想，对例（2）判断正确的人数一年级有8名（40%），二年级有11名（47.8%），四年级仅有2名（28.6%），各年级都不超过半数。之所以这样，我们认为，这是因为“そして”和“それから”都可以译成汉语的“还有”造成的（《综合日语》对“そして”的解释是“以及，还有”；对“それから”的解释是“（表示添加）另外，还有”），或者说大多数学生误以为“そして”和“それから”都相当于英语的“&”。但其实不然，比较接近英语“&”的用法的是“それから”，而不是“そして”，“そして”后面往往会引出一个更加重要的信息（石黑2008：90），因此，“そして”前后并不是严格意义上的并列关系。针对这一点，我们认为，如果今后能够在教材上明确用法与用法间的区别，就可以让学生对用法相近的接续词有一个更加准确的理解和把握。

除此以外，从教师层面看，也需要留意以下几点。

首先，拿接续词的文体问题来说，我们经常可以在学生的毕业论文中看到“だから”的身影。但我们又不能简单地告诉学生“だから”只用于口语，因为在不是特别正式或生硬的文章中，比如小说等，“だから”是可以出现的（“でも”也存在同样问题，但比“だから”的情况要好一些）。所以，我们不能简单地对文体进行二分法，还要进一步向

学生明确在用于书面语的接续词里，哪些用于较为正式的情况。再举个例子，如果在不是特别正式的文章中，用了“すなわち”或“換言すると”这样的接续词，日语母语者就会觉得很不自在。虽然这种不自在不算误用，但会给日语母语者造成一定心理上的负担 (stressful)。所以，我们认为有必要在教材中明确这一点。

其次，需要引起我们教师注意的是，一个接续词使用得是否得体，并不取决于这个接续词表达的内在的、客观的逻辑关系，还是取决于说话人（作者）想要表达怎样的逻辑关系，而听话人（读者）能否正确地提取出这层意思。比如，

(3) 昨日は徹夜をして、今朝の試験に臨んだ。しかし、結果は 0 点だった。

(4) 昨日は徹夜をして、今朝の試験に臨んだ。しかし、結果は 100 点だった。

(例 (3) (4) 引自石黒 2008: 30)

“しかし”是表示逆接的接续词。正常情况下，我们认为，为了准备第二天的考试前一天晚上彻夜不眠，总会收到一些成效。可结果却出乎意料，考 0 分。所以，例 (3) 用了“しかし”，我们觉得很自然。但例 (4) 呢？乍一看好像觉得逻辑上有些问题，前后两句话不像逆接关系。但仔细想想，前一天彻夜不眠准备第二天的考试，一般情况下也就只能考个 70、80 分，可没想到竟然考了 100 分，违背了常理。因此，这里也存在逆接关系。如果我们不能看到接续词具有其创造性的一面，就无法理解为什么例 (4) 也是自然的表达。正如石黒 2008: 30-31 指出的那样，“接续词的选择并不是由客观理论所决定，而是由说话人（或作者）的主观理论所决定的”。带着这一观点重新审视接续词或许能够给我们很多启发。

最后，作为今后的课题，我们认为，一方面要扩大语料库的规模，与此同时，还要对语料库进行有效合理的分析。这就要求我们不仅要作定量分析，还要作定性分析，尽快尽早地找到中国日语学习者在接续词习得上的问题所在，只有这样才能对症下药，才能帮助中国日语学习者提高习得水平。

#### 〔主要参考文献〕

市川孝 (1978) 『国語教育のための文章論概説』，教育出版。

石黒圭 (2008) 『文章は接続詞で決まる』，光文社。

石黒圭、阿呆きみ枝、佐川祥子、中野沙弥子、劉洋 (2009) 「接続表現のジャンル別出現頻度について」，『一橋大学留学センター紀要』(12)。

倉持益子、鈴木秀明（2007）「日本語学習者における接続詞の習得—留学生の接続詞使用現状」『神田外国語大学紀要』（19）。

日本語記述文法研究会編（2009）『現代日本語文法7』，くろしお出版。

高野愛子（2012）「接続詞「だから」をめぐる文体差」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集（38）』。

吉野貴志（2015）「児童生徒作文における接続表現の出現頻度と連接類型の特徴」，『作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究プロジェクト全体会議』。

张建华（2009）「中国日语学习者作文中接续词的分布与类型——与日本本族语者作文对比」，『日语教育与日本学研究 第5届大学日语教育研究国际研讨会论文集』。

